



Vol. 167

桜花の候、皆さま方には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。診療科別予定表を同封しておりますので、今後とも患者さまのご紹介を宜しく願います。



## ごあいさつ



副院長 / 消化器内科 部長

いわなが よしひさ

岩永 佳久

平素より格別の御高配いただき誠にありがとうございます。

わたくしの専門とする消化器内科は、旧阪南市立病院内科から生長会阪南市民病院内科に移行、平成25年4月より新病院設立とともに消化器内科が部門として独立しました。当初はスタッフも少なかったですが、現在、消化器内科常勤医3人で日々の診療にあっております。内視鏡を必要とする胃、大腸、食道等消化管の診療のみならず、肝臓、胆管、膵臓も幅広く診療を行い、現在は診療体制が充実されたこともあり重症疾患含めほぼすべての消化器疾患の診療が可能となり、また、診療時間外にも消化器疾患のオンコール体制で対応し、毎日多数のご紹介をいただいております。ひとえに地域の先生方の支えがあってこそのものであると深く感謝申し上げます。

診療の中心となる内視鏡検査は順調に増加し、2023年度は上部下部合わせて6000件、大腸ポリープ切除が900件強、早期癌に対する粘膜下層剥離術は年間100件強、ERCP、超音波内視鏡を中心として胆道疾患の治療も400件前後で高い水準を維持しています。他に胃瘻造設や、消化管出血に対する止血術も積極的に行っております。肝臓疾患も専門医体制で診療し、必要に応じて肝生検などで診断しウイルス性肝炎、原発性胆汁性肝硬変、自己免疫性肝炎、MASCD (MASH)、肝臓癌等に対し、抗ウイルスカテーテル治療、局所療法始め種々の治療に繋げております。消化器外科とも連携し、重症度の高い患者様にも対応できております。

つきましては誠に微力ではありますが、今後も患者様一人一人に真摯に、誠意をもった診療を続けて参る所存ですので今後とも引き続きよろしくお願い申し上げます。

### 【プロフィール】

＜役職＞副院長

＜資格等＞日本内科学会認定総合内科指導医、内科専門医

＜専門領域＞消化器内科、内視鏡

日本消化器病学会認定消化器病指導医、専門医 ほか

## 形成外科からのお知らせ（新年度の体制について別紙もご覧ください）

4月より中西（毎週月曜日）と朝村（隔週金曜日）、現・和歌山県立医科大学附属病院の形成外科教室教授が診察しております。形成外科は**頭**の先から**ゆび**先までの怪我や加齢による変形、すなわち機能面だけでなく、整容面（見た目）の改善を行うことができる唯一の外科です。近年で最も多い疾患は、加齢による眼瞼下垂症です。眼瞼下垂症は、70歳以上で3人に1人発症します。



眼瞼下垂症



### 形成外科は**頭**の先から**ゆび**先まで

- ・ 外傷（顔の骨折、キズあと）
- ・ 腫瘍（できもの）
- ・ 先天異常（生まれつきの変形）
- ・ 加齢による疾患（後から生じた変形）

### 患者さんの**“心を変える外科”**

形成外科で取り扱う代表疾患です。何か見た目で気になることがあれば、一度受診をお勧めします。

外傷	顔のけが（軟部組織損傷、骨折）、手足の外傷・切断指、咬傷、熱傷（やけど） 外傷後・手術後の瘢痕（キズあと）
腫瘍	皮膚のできもの、皮膚癌、母斑（黒子・あざ・しみ）・母斑症、血管腫（赤あざ） ケロイド（もりあがったキズあと）、乳癌術後、女性化乳房、陥没乳頭
先天異常	顔面奇形（顔面裂、唇裂、口蓋裂、小耳症）、手足の奇形（多指症・合指症） 臍ヘルニア（でべそ）、顎変形症（受け口）
その他	腋臭症（わきが）、陥入爪（巻き爪）、眼瞼下垂症、睫毛内反症（逆まつげ）、 鼻涙管損傷、頭頸部癌後の再建、顔面神経麻痺、褥瘡（床ずれ）、難治性潰瘍 （足の潰瘍・壊死）



#### 社会医療法人 生長会 阪南市民病院 地域連携室

（直通）TEL 072-471-3020 FAX 072-471-3977

受付時間 午前8：45～午後6：00 ※土曜日は午後0：30までとなります



#### ～ 阪南市民病院 基本方針 ～

全人的な医療を通して人々が自分らしく生きることにつながる病院  
「やさしい」「ていねい」「あったかい」医療を提供する

